

Project B10	地域協働専攻 地域政策グループ 「障害」のある人の地域生活支援プロジェクト —NPO 法人自立の風かんばすとの連携—
メンバー	[学 生] 岩澤 千歳/岡村 留奈/佐藤 陽香/島 麻依/高橋 亜弥/武田 菜々子/ フスナ/巻口 瑞稀/宮野 いくみ/山内 淑乃/渡辺 一貴 [担当教員] 廣畑 圭介
<p>【背景】</p> <p>現代社会において、障害者が親元や施設で暮らすことを当然と考える当事者や、当事者以外の人もそのような考えを持った人が多く存在する。一方で、地域での自立生活を考える障害者も数多く存在する。</p> <p>【目的】</p> <p>本地域プロジェクトの目的は以下の4点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「NPO 法人自立の風かんばす」の活動に関わり、実践を通して目的や活動内容を理解する。 2 函館市における社会福祉の現状と課題を理解する。 3 障害のある人との交流を通して、障害のある人への理解を深める。 4 函館市の障害者福祉の推進への貢献を図る。 <p>【概要】</p> <p>2005年から函館市内を中心に、障害のある人への理解についての普及啓発活動、障害のある人の地域生活(自立生活)の支援活動を行っている「NPO 法人自立の風かんばす」の活動に参画して、活動の実態や社会福祉における地域課題を理解し、函館市の障害者福祉を推進するプロジェクトである。「NPO 法人自立の風かんばす」は、障害があっても地域社会で自分らしく生きることができるよう自立生活を支援し、またそれが当たり前でできる豊かな社会を目指している団体である。</p>	
<p>【プロセスと成果】</p> <p>1年間で主に以下の5つの活動を行った。</p> <p>①障害者の自立生活支援事業(活動介助、作り置き食堂、外出)、②障害者の自立啓発活動(冊子『小石』作成)、③イベント(総会、まつりぼう、地域のイベントへの参加)、④各研修(重度訪問介護事業者養成研修、風花研修、くらげ研修)、⑤その他、ドット絵看板の作成や筋トレなどの交流活動も行った。</p> <p><これらの活動を通して得られた成果></p> <p>【「かんばす」への活動理解】</p> <p>大学祭でのブース展示を通して、より多くの学生と地域の方に「かんばす」について知ってもらえたと思う。障害者の自立支援の啓発に取り組む「かんばす」の活動を理解した上で学生の立場で貢献できたと思う。</p> <p>【地域課題への理解】</p> <p>誰もが暮らしやすいように段差などを解消するなど環境を変えることが大切。その一方で、障害のある人は自立生活を送る上で自分で乗り越える力をもっている。障壁を取り除くことだけでなく、その上で支えることや一緒に楽しもうとすることも大切であることに気づいた。</p> <p>【障害のある人への理解】</p> <p>事務所以外の地域での活動に参加した際、障害のある人が日常生活で抱える不便さや大変さを知ることができた。また、障害があっても地域の中で暮らすということがいかに重要か、地域社会の構成員として障害の有無に関わらず一人の人として接したり、態度を変えないことなど、障害のある人との関わり方を意識する必要があると学んだ。</p>	

【総括と反省・今後の課題】

前期の講義の日程とは違い後期の日程は講義の時間との兼ね合いもあり前期と比べて参加が難しい日も多く、参加できたとしても少人数での参加となってしまったのが反省点だった。しかし通常の活動に参加できない中で積極的にイベントには参加することができた。またそのことにより新たな学びや視点を獲得することが出来た。もみじがりやクリスマスなどのイベントではルールをわかりやすくするといった工夫やゲームではハンデを付けるといった工夫がなされていたり、気軽に足を運べない方に向けてオンラインでの参加を行うなど通常の日の活動よりもさらに「みんなが等しく楽しめる」ことを意識しているということがわかった。また交流を通して障害者だからといってできないと決めつけ何でもかんでも手伝おうとするのではなく、障害のある人に対して自ら障壁を乗り越えていくサポートをし、そのうえで自分たちも楽しむことも大切であるということ学んだ。「かんばす」を通しての活動は「かんばす」のメンバーの中だけで楽しむことが多く、せつかくみんなが等しく活躍できるようにしたイベントや活動が設計されているのに対して、活動に参加するメンバーが限られていることが少しもったいないと感じた。

今後の活動では、もっと地域住民との交流を増やしていくことを通して私たちが学んだことを活かし、地域住民の方々に「障害」について理解を促進していくことがあげられる。そのためにもっと広く宣伝を行う工夫や私たち大学生としての立場を利用し、若年層との関わりを増やすなどの工夫など、大学生として地域住民との橋渡しをできるようにする活動にしていくことが今後の課題である。

【地域からの評価(「かんばす」への質問と回答)】

①色んな障害者がいて、支援の方法もそれぞれなのに一体的に活動するのは大変ではないか。

⇒「かんばす」の活動は確かに障害者の自立支援(地域生活支援)を行っている NPO 法人であるが、「障害」の種別だけでなく、また障害の有無にかかわらず地域で自立した生活を送っていける空気感や雰囲気作りを一体となつてつくっていくようなコミュニティである。「障害」の種別や障害の有無に関係なく全員で活動することに意義があるし、相互に力を与え合つて支え合いの形が築かれていくと考えている。

②障害者に寄り添っていく必要があるということは理解しているが、実際に「かんばす」のような活動や特定の場所に行かなければ障害者と関わるということは何もない中でどう寄り添う姿勢を見いだしていけばいいのだろうか。

⇒寄り添っていかなければいけないと思うことだけで十分であると思う。例えば目の前にサポートを必要とする人がいたとして、そのときに自分が可能な範囲で動く、これは至極当然の人間の働きであるし、障害の有無にかかわらず困っている人がいたら働きかけるということだけで十分なのではないかと考えている。また、こちらの独りよがりになるのではなく、当事者がなにを求めているのかを汲むことが相互理解にも繋がるのではないかとと思う。

【その他】

<年間スケジュール>

2023年4月

・授業の説明

→「かんばす」LINE オープンチャット加盟

2023年5月

・顔合わせ(自己紹介・活動内容の説明)

・活動についての話し合い

2023年6月～12月

・小石の紙折り(製本作業)

・活動介助

・作り置き食堂

・ドット絵看板の作成

・研修

・サムヨモ会への参加

※その他活動

2023年4月

・お花見かんばす

2023年10月

・函教祭への展示

2023年11月

・もみじがり

2023年12月

・まったりぼうの準備

・まったりぼうの参加

